

静岡県内市町の地域コミュニティ・協働事例

裾野市・「市民協働によるまちづくり推進協議会」

「事務局案無し！」市民が主役のワークショップ

裾野市では、平成22年から「市民協働によるまちづくり推進協議会」を設置し、平成25年3月からは、市の付属機関として位置づけています。

今回は、「平成28年度 第4回市民協働によるまちづくり推進協議会」(以下、協議会)を取材しました。

協議会は、裾野市長の諮問機関として、「市民協働によるまちづくりを推進するための施策と環境整備」について意見を求められています。今年度第4回を迎えて、答申(市長へ意見をまとめて伝えること)に向け、意見をまとめていく段階に入っていました。

この協議会の大きな特長は、**行政が「事務局案」(いわゆる「たたき台」)を準備しない**ことです。これは協議会発足時の**役員選考**から続くこの協議会のスタイルだそうです。

答申に向けた意見として、まず、協議会会長 森川 賢さん(市民)が、事前に森川さんお手製の資料を使って「これまでの流れ」「気づき」などを説明しました。説明の後すぐに、森川さんが「皆さんで話し合ってみてください」と意見交換を促します。

天井には飾り、テーブルにはお菓子と飲みもの。わいわいとした雰囲気です。



協議会会長の森川さんが説明します。



にぎやかな雰囲気で進められています

委員となっている裾野市職員、市民のみなさんは、「事務局案を直す」のではなく、「**自ら考えて**」意見を言います。「区長(自治会長)の役割を見直してどうか」「区長の仕事はすごく多くて大変だと聞いた」など、**職員の経験や市民の感覚が織り交ざります**。

意見を出し合った後は、模造紙にグループごとに出た意見を書いて、3分程度の発表会。

各グループが様々な意見を発表。自分たちが考えた意見だからこそその発表だと思いました。



みなさんの発表の様子。役割分担もばっちり！



編集後記

「自ら考えて意見を言う」ことで、行政と市民の距離がグッと近くなっていると感じました。

委員は2年任期で変わっていくそうです。継続した取組みで、参加人数がどんどん増えていくことを期待します。